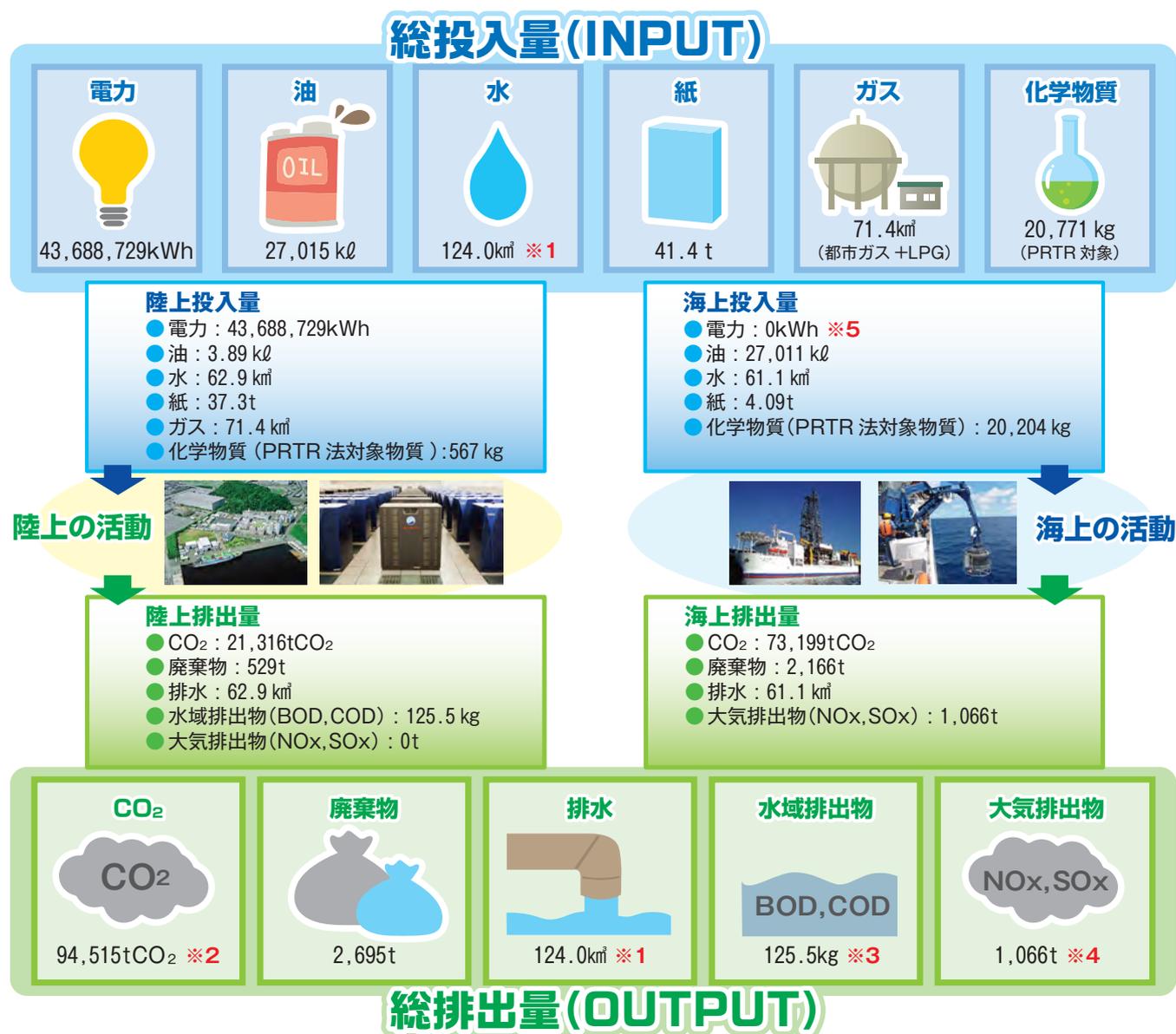


# IV. 環境の取組み

## ① JAMSTECのマテリアルバランス

### JAMSTEC全体のマテリアルバランスと環境パフォーマンス

本図はJAMSTECの事業活動に伴う、エネルギーや資源などの投入量（INPUT）とCO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出量（OUTPUT）を表しています。なお、端数処理の関係上、合計と一致しない場合があります。

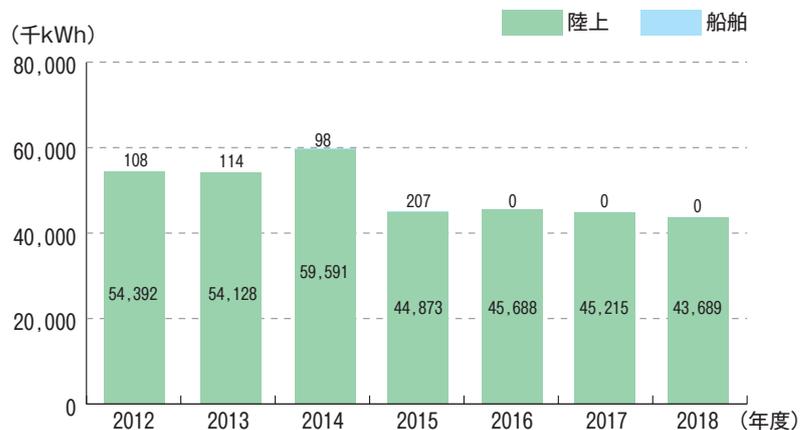


※1 水のINPUTについては2014年度より船舶における海水からの造水についても計上しています。また、排水量 (OUTPUT) についてはINPUTと同量を記載しています。  
 ※2 CO<sub>2</sub>排出量についてはエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量のみを記載しています。なお、排出量の算定については、環境報告ガイドライン2012年版 (環境省) による「エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の算定式」によります。  
 ※3 水域排出物については生物化学的酸素要求量 (BOD) 及び化学的酸素要求量 (COD) の値から算定しています。  
 ※4 大気排出物については窒素酸化物 (NOx) 及び硫黄酸化物 (SOx) の値から算定しています。  
 ※5 船舶のドックにおける修理は外部委託のため、修理時に消費された電力は集計対象外としました。

## ② 主要な環境パフォーマンスデータの推移

### 電気使用量

- JAMSTECの電力消費の大部分は、地球シミュレータ及び空調設備によるものです。2015年度に地球シミュレータの後継機の運用が開始され、大幅な使用量の削減を達成し、以降はほぼ同一水準で推移しています。
- 船舶の電力消費は、ドックでの作業について外部に委託をしているため、ドック内での作業に係る船舶の電力消費は集計の対象外としています。2018年度についても例年どおりドック以外での給電はありませんでした。



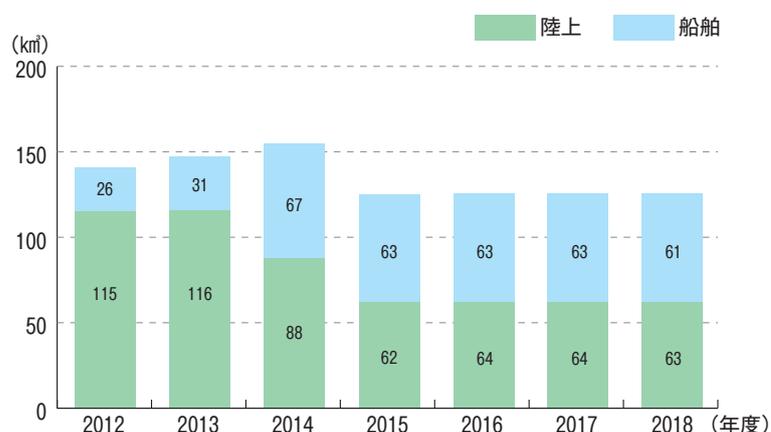
### 燃料油使用量

- JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。そのため、船舶の運航形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動します。
- 2016年度以降の燃料油の消費量は、平均値から約1%程度の増減はありますが、ほぼ同一水準で推移しています。



### 水使用量

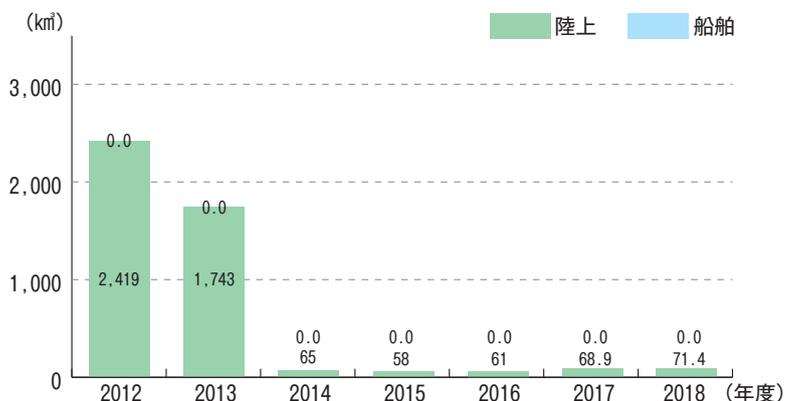
- 水の使用量については、2015年以降、陸上及び船舶の双方で、ほぼ同一水準で推移しています。
- 陸上における水の使用量の6~7割は地球シミュレータの冷却設備での使用によるものですが、設備を更新した2015年度以降の4年間は、同一水準で推移しています。



※2014年度より船舶における海水からの造水についても計上しています。

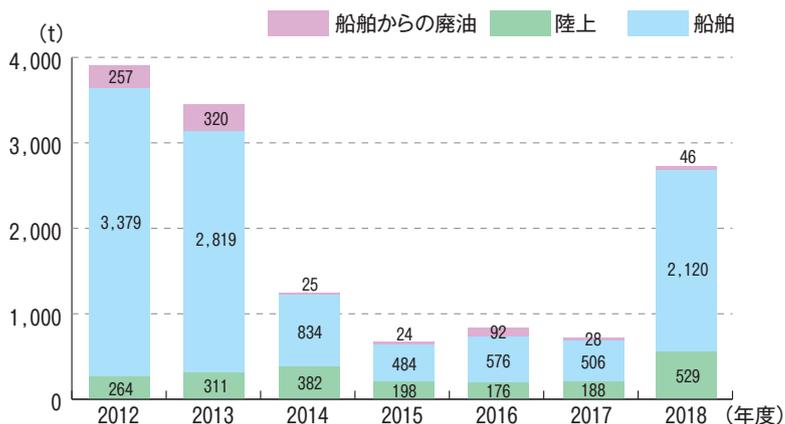
## ガス使用量

- JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な用途は多目的プールの温水ヒーターや暖房、社員食堂の調理などに使用しています。船上では、ガスは使用していません。
- 2018年度は横須賀本部の多目的プールの外部使用（外部の方への貸出）が増加した影響で、昨年度と比較して、約4%程度増加しています。



## 廃棄物排出量

- JAMSTECの廃棄物排出量は船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存する特徴があります。
- 2018年度は2017年度と比較して廃棄物排出量が、陸上分で約3倍増加、船舶分で約4倍増加、全体で約4倍増加しました。
- 船舶からの廃棄物排出量の増加については、資器材の整理及び船舶の稼働日数の増加に起因するものです。また、陸上からの廃棄物排出量の増加については、老朽化したコンテナの廃棄など、大掛かりな物品の整理を行ったためです。



※2014年度より、船舶から排出される廃油のうち、洋上焼却により処分した廃油以外のものについては、グラフ中の「船舶」の区分に含めて集計をしています。

## CO<sub>2</sub>排出量

- JAMSTECのCO<sub>2</sub>排出量は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。
- 2018年度は2017年度と比較して、船舶では約1%増加、陸上では約3%減少、全体ではほぼ同水準の排出量となっています。船舶について直近3ヶ年で比較すると、船舶の稼働率の変動により約2%増加していますが、陸上では空調機等の電気設備の更新や節電対策による電気使用量の減少により、CO<sub>2</sub>排出量についても減少する傾向にあります。



# ③ 各拠点の環境パフォーマンスと取組み

## 2018年度の環境配慮活動・社会貢献活動の取組み事例紹介

分類	実施内容
環境	1 <b>【図書館における環境配慮活動】</b> 2017年度に引き続き、各種委員会配布資料のペーパーレス化を推進しました。図書委員会（4回開催）及びJAMSTEC-R編集委員会（3回開催）において配付資料の印刷を廃止し、Webでの配信としました。これによりコピー用紙使用量を約5kg削減することができました。
	2 <b>【さよならペットボトルプロジェクト】</b> 「さよならペットボトルプロジェクト」と題し、3つのRを設定し、実行しました。 ①Reduce：GODACに設置している自動販売機の商品をペットボトルから缶製品へ置き換えました。 ②Reuse：職員のペットボトル利用を減らし、マイボトル使用を進めるために水道直結型ウォーターサーバを設置しました。 ③Recycle：リサイクル資源ごみの分別を実施しました。
	3 <b>【テプラカートリッジ及びインクカートリッジの再利用】</b> 廃棄物焼却時に排出されるCO <sub>2</sub> を抑制するため、テプラカートリッジ及びインクカートリッジをリサイクルできるよう廃棄せずに機構内で収集し、リサイクルを実施している業者に送付しました。 この結果、テプラカートリッジを約360個（3箱分、約120個/箱）、インクカートリッジを約250個（5箱分、約50個/箱）回収しました。
	4 <b>【オンラインによる空調システムの監視】</b> 2018年度も継続して空調機の状態を24時間把握し、省エネルギーや経費の削減に努めました。
	5 <b>【扇風機等を有効利用して温度調節を行い節電】</b> サーバ室や居室に扇風機やサーキュレーターを設置し空気を循環させ、空調温度設定の最適化を継続的に試み、消費電力の効率化を図りました。
	6 <b>【省エネ型設備の導入による省エネ】</b> 深海総合研究棟の空調機を省エネ性の高いものに更新しました。
社会貢献	1 <b>【図書館の一般開放】</b> ①横浜図書館2Fの一般開放 公開セミナーのテーマに合わせ、「地球温暖化」等、環境問題に関する図書の特別展示を実施しました。 ②自治体活動への協力参加 横浜市金沢区の読書推進活動に協力し、イベント及びライブラリツアー等を実施しました。
	2 <b>【セミナーの開催と講師派遣（むつ研究所）】</b> ①青森県むつ市の地元FM放送局（FM Azur）の番組に毎週出演して情報発信しています。 ②海洋科学、地球環境変動等の理解増進や情報発信、海洋研究開発機構の事業に対する理解増進のための様々なイベントを実施しました。 ※主なイベント：沿岸観察会（講演会：むつ市立図書館）、沿岸観察会（北北自然の家・ちぢり浜）、企画展示「深海 Deep-Dive ～暗黒の世界に挑む～」(展示・講演：青森県立三沢航空科学館) 他
	3 <b>【海洋短波レーダーによる津軽海峡東部海域の表面潮流観測と情報提供】</b> MORSETS（津軽海峡東部海洋レーダーデータサイト）に水温データなどの情報を追加し、水産総合研究所の「海ナビ@あおもり」との連携やデータ公開を行っています。利用者の漁業関係者からは高い評価を得ており、漁業者などの一般利用を促進し、より一層の地域水産業、海運業、防災減殺、海難事故対応及び海洋環境変動研究への貢献を目指しています。
	4 <b>【月刊誌への投稿】</b> 月刊「科学」2019年1月号：【コラム】深海のプラスチック』を執筆、投稿しました。

### 横須賀本部

電気使用量(千kWh)



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



### 横浜研究所

電気使用量(千kWh)



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)



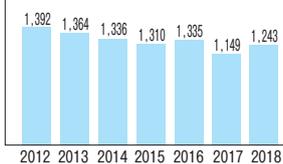
紙使用量(t)



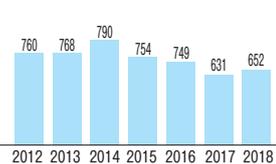
※横浜研究所で使用している紙は、横須賀本部で購入しているため、同じ量を計上しています。

### むつ研究所

電気使用量(千kWh)



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)

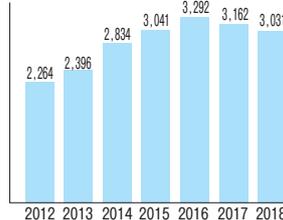


紙使用量(t)



### 高知コア研究所

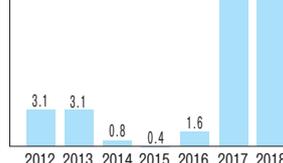
電気使用量(千kWh)



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



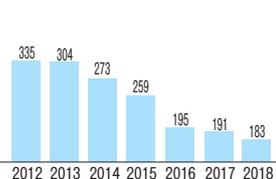
※高知コア研究所における廃棄物排出量は2014年度から集計方法を変更しています。また、2017年度からは、それまで排出量を把握することが困難であった廃棄物について、廃棄物の種類ごとに係数を定め、新たに算定・計上しました。

### 国際海洋環境情報センター(GODAC)

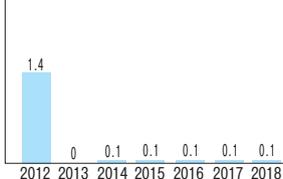
電気使用量(千kWh)



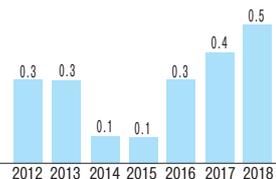
CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



ガンリン使用料(kℓ)

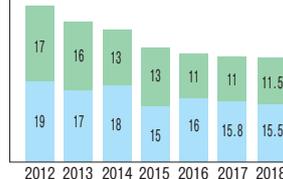


紙使用量(t)

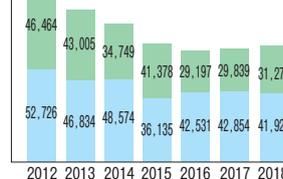


### 研究船

A重油使用量(千ℓ)



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



かいれい



ちきゅう

廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



「ちきゅう」では、紙の削減活動を行っておりますが、2013年度までについてはデータが取得できていないため、数値を記載しておりません。

## ④ 環境配慮活動の実績・評価

2018年度の主な環境配慮活動の実績と評価については以下のとおりです。2019年度につきましても引き続き省エネルギー、省資源、廃棄物排出量の削減、環境に配慮した契約など、種々の環境配慮活動を積極的に推進し、前年度よりも良い環境パフォーマンスとなるよう努めて参ります。

項目	実績 (2017年度比)	評価
電気	約3%減少	JAMSTECの電力消費の大部分は、地球シミュレータ及び空調設備の稼働によるものです。2015年度に地球シミュレータの後継機の運用が開始され、大幅な使用量の削減を達成し、以降はほぼ同水準で推移しています。 今後についても同様な水準で推移するものと推測されますが、電気使用量は地球シミュレータの稼働率に大きく影響され、計算機能を利用する研究の内容並びに稼働実績が年ごとに変動するため、目標設定が難しいところではありますが、総合的なエネルギー使用の合理化に努め、いろいろな節電対策を実施し、削減に取り組みます。
燃料油	約1%増加	JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。そのため、船舶の運航形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動します。 船舶における2018年度の燃料油の消費量は約1%増加しておりますが、ほぼ同水準で推移しています。 今後も燃料消費の削減に配慮した運航計画を策定するなど、燃料使用量削減のための諸活動に取り組みます。
水	約2%減少	水の使用量については、2015年度以降、陸上及び船舶の双方でほぼ同水準で推移しています。 陸上における水の使用量の6～7割は地球シミュレータの冷却設備での使用によるものですが、2015年度に設備更新を行った結果、水の使用は大幅に削減され、それ以降はほぼ同水準で推移しています。 今後も節水活動、水資源の循環利用に積極的に取り組みます。
ガス	約4%増加	JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な用途は多目的プールの温水ヒーターや暖房、食堂での調理などに使用しています。船上ではガスは使用していません。 2018年度のガス使用量は約4%増加しています。これは、横須賀本部の多目的プールの外部使用（外部の方への貸出）が増加したことで温水ヒーターの稼働率が増加した結果であると推測されます。 2014年度に地球シミュレータの空調設備をガス式から電気式に更新し、それ以降はほぼ横ばい状態が続いています。 今後も使用量の削減に取り組みます。
廃棄物	約4倍増加 (約270%増加)	JAMSTECの廃棄物排出量は、船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存する特徴があります。 2018年度の廃棄物排出量は、陸上分で約3倍増加、船舶分で約4倍増加、全体で約4倍増加しました。 船舶における増加については、資器材の整理及び船舶の稼働率の増加に起因するものです。また、陸上における増加については、老朽化したコンテナの廃棄など、大掛かりな物品の整理を行ったためです。 今後も引き続きあらゆる業務において廃棄物が極力出ないような工夫を行うなど、排出量の削減に努めてまいります。
紙	約17%増加	JAMSTECでは、法人文書や会議資料の電子化、両面コピーや裏紙の使用などを推進し、紙の使用量を抑える活動を継続して取り組んでいます。会議ではpdfファイルで資料を配布しパソコンで閲覧する方法を採用しており、紙による資料の配布は一部のみとなっています。 このような取り組みにより、コピー用紙など定常的に使用する紙類の使用につきましても減少傾向にありますが、2018年度は一部の研究プログラムが終了することに伴い、その成果を公表するためのパンフレット等を作成したため、紙類の使用量が大幅に増加しました。 今後も出来る限りペーパーレスに取り組み、削減に努めます。
温室効果ガス	ほぼ同水準	JAMSTECのCO <sub>2</sub> 排出量は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。 2018年度の排出量は、船舶で約1%増加、陸上で約3%減少、総量としてはほぼ同水準で推移しています。 陸上における約3%の削減は、空調機等の電気設備の更新や節電対策による電気使用量の減少によるものと考えられます。 JAMSTECでは、2018年6月に「地球温暖化対策実行計画」を策定し、2020年度までに温室効果ガスを10%削減（2013年度比）するという目標を立てておりますが、2018年度においては2013年度比で19%の削減を達成しております。

## ⑤ 環境に配慮した調達・契約

### ■ 環境に配慮した調達・契約の概要

当機構ではグリーン購入法及び環境配慮契約法の規定に則り、グリーン購入を推進するための方針（環境物品等の調達の推進を図るための方針：調達方針）を作成し環境物品の調達を行うとともに、国が定める環境配慮契約の基本方針に従い環境配慮契約を推進する体制を整備しています。なお、グリーン購入に係る方針、調達率、実績及び環境配慮契約に係る実績については、ホームページ上にて公

開しています。

[http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/kankyo\\_hairyo.html](http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/kankyo_hairyo.html)

### ■ 調達の方針

当機構では平成31年度の調達方針を以下のように定めています。

### 平成31年度における国立研究開発法人海洋研究開発機構の 環境物品等の調達の推進を図るための方針

#### I 特定調達物品等の平成31年度における調達の目標

平成31年度における個別の特定調達物品等（環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月8日閣議決定。以下「基本方針」という。）に定める特定調達品目毎に判断の基準を満たすもの。）の調達目標は、調達を実施する全ての項目について100%（調達目標については詳細な事項がありますので、具体的な内容は上記URLをご参照ください。）とします。

なお、基本方針に規定された判断の基準は、あくまでも調達の推進に当たっての一つの目安を示すものであり、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとします。

#### II 特定調達物品等以外の平成31年度に調達を推進する環境物品等及びその調達の目標

物品の選択に当たっては、エコマークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めます。画像機器等、電子計算機等、オフィス機器等、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものを選択します。

#### III その他環境物品等の調達の推進に関する事項

1. 環境物品等の調達を推進するため、「環境物品等の調達推進体制」を定め、推進体制を整備します。
2. 本方針は海洋研究開発機構全ての部署を対象とします。
3. 機器類等については、できる限り修理等を行い、長期間の使用を推進します。
4. 調達する品目に応じて、エコマークやエコリーフなどの第三者機関による環境ラベルの情報を十分に活用するなど基本方針に定める判断の基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めます。
5. 物品等を納入する事業者、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対して事業者自身が本調達方針に準じたグリーン購入を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入に際しては、原則として本調達方針で定められた自動車を利用するよう働きかけます。
6. 事業者の選定に当たっては、その規模に応じてISO14001又は環境活動評価プログラム等により環境管理を行なっている者又は環境報告書を作成している者を優先して考慮するものとします。
7. 調達を行う地域の地方公共団体の環境政策及び調達方針と連帯を図りつつグリーン購入を推進します。
8. 本方針に基づく調達担当窓口は経理部契約調整課とします。

## ■ グリーン購入の実績

平成30年度の「環境物品等の調達を推進を図るための方針」に定めた各品目の目標調達率を達成したものは54品目（平成29年度は29品目）でした。

研究開発で使用する調達品目についてはグリーン購入法非適合品もありますが、環境配慮に関する関係法令の遵守を前提として環境負荷の低減に配慮し、特に文具類について特定調達物品の調達率向上を図るなど、法律の趣旨を踏まえ、一層の改善に努めて参ります。

各品目に対する実際の調達率など具体的な実績につきましては、以下のURLをご参照ください。

[http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/pdf/green\\_procurement\\_result\\_h30.pdf](http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/pdf/green_procurement_result_h30.pdf)

## ■ 平成30年度の調達に関連したその他の取組み

### ① 特定調達物品等以外の環境物品等の調達状況

特定調達物品以外の環境物品等については、3R (reduce・reuse・recycle) の推進を図り、エコマークの認定を受けたもの、または同等品のものを選択し消費電力が小さく、かつ再生材料などを使用したものを選択するよう努めました。

### ② その他環境物品等の調達推進に関する事項について

平成30年度の調達方針に表記した事項の他、契約業者等にグリーン購入の推進を呼びかけ、また、機構内では両面コピー・使用済み裏紙コピーの活用、分別ごみ回収の促進に努めました。

## ● 電力の供給を受ける契約

### 【横須賀本部】

契約期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日
契約電力	1600kW
予定使用電力量	6,294,000kWh（平成30年度分）
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注）
入札申込者	4者
落札者	丸紅新電力株式会社

## ■ 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）に基づき、平成30年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績は以下のとおりです。

### ① 平成30年度の実績

環境配慮契約法及び国及び独立行政法人等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する基本方針（平成22年2月5日閣議決定。以下「基本方針」という。）に基づき、可能なものについて温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約（以下「環境配慮契約」という。）を締結しました。

### ② 環境配慮契約の締結状況

基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている電気の供給、自動車の購入及び賃貸借、船舶の調達、省エネルギー改修事業（ESCO事業）、建築物の設計、産業廃棄物処理のうち、電気の供給に関しては当機構の4拠点、自動車の購入及び賃貸借に関して当機構の1拠点において、それぞれ以下のとおり環境配慮契約を締結しました。

なお、船舶の調達、ESCO事業、建築物の設計及び産業廃棄物の処理については環境配慮契約により調達した案件はありませんでした。

### 【横浜研究所】

契約期間	平成30年7月1日～平成31年3月31日
契約電力	動力需要：3,300kW 電灯動力併用需要：1,480kW
予定使用電力量	動力需要：19,408,000kWh 電灯動力併用需要：5,354,000kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注）
入札申込者	1者
契約相手先	東京電力エナジーパートナー株式会社

### 【高知コア研究所】

契約期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
契約電力	561kW
予定使用電力量	3,297,870kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注）
入札申込者	4者
落札者	テブコカカスタマーサービス株式会社

### 【むつ研究所】

契約期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
契約電力	241kW
予定使用電力量	1,055,000kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注）
入札申込者	1者
契約相手先	東北電力株式会社

（注）当該入札の申込者のうち、二酸化炭素排出係数、未利用エネルギー活用状況、再生可能エネルギー導入状況、グリーン電力証書の調達者への譲渡予定量に係る数値等をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

#### ●自動車の賃貸借に係る契約

自動車の賃貸借に係る契約では、1拠点の1台について、賃借料及び環境性能（燃費）を総合的に評価し、その結果が最も優れた者と契約を締結する総合評価落札方式による入札を実施しました。

## ⑥ いろいろな環境配慮活動

### ■省エネルギーの取組み

#### ①通年で継続して行う省エネルギー対策

##### ◆照明の消灯

業務上特に必要な場合を除き、昼休み、夜間は消灯し、廊下、エントランスホール等は、安全上支障のない範囲で消灯する。

##### ◆OA機器

業務上支障のない範囲で、パソコン、複合機等の電源をこまめに切る。

##### ◆会議資料

特に必要な場合以外は両面コピーとし、報告書等は概要資料とする。

#### ②クールビズ

##### ◆2019年度の実施期間

2019年5月1日（水）～9月30日（月）  
※10月においても各自の判断で軽装可能

##### ◆取組み事項

###### ◇適正な室温管理

冷房時の室温が概ね28℃となるよう、設定温度を調節する。

###### ◇軽装の励行

通常業務及び会議において上着、ネクタイの省略を励

行する。また、その旨を看板等で掲示し、来訪者にも周知する。

#### ③夏期の節電対策

##### ◆電気機器の停止

トイレ暖房便座の停止 6月初旬～10月下旬

電気給水器温水の停止 6月初旬～10月中旬

洗濯乾燥機の運転停止 7月～9月 11：00～15：00

##### ◆空調効率を高めるための取組み事項

◇ドアの閉鎖

◇ブラインドの閉鎖

◇業務に支障のないエリア及び昼休み時間帯の消灯

以上のほか、各拠点で実施されている環境配慮の取組みについては、3. 各拠点の環境パフォーマンスと取組みをご覧ください。

### ■廃棄物の処理

#### ①陸上施設における廃棄物処理

陸上施設から発生する廃棄物の処理については、廃棄物処理法や放射線障害防止法を始めとする廃棄物それぞれの種別に応じた関連法令に基づき処理を行っています。

基本的には産業廃棄物として処理を行っていますが、

4R (Refuse, Reduce, Reuse, Recycle) を推進するため、家電リサイクル法の対象となる家電製品やパソコンなどを始め、紙などの再資源化可能な廃棄物に関しては可能な限り資源化し、コピー用紙の両面コピーや裏紙の使用、文房具のリユース、トナーカートリッジやインクカートリッジのリサイクルなどを行い、廃棄物の排出量を抑えるように努めています。

一方、陸上施設で発生した生活排水については、浄化槽で処理を行った後、公共用水域（海域）に放流して処理を行うか、下水道が整備されている地区の事業所では下水道に放流しています。

## ②船舶における廃棄物処理

船舶から発生する廃棄物の処理については、海洋汚染防止法等の法令に基づき処理をしますが、船舶で発生した廃棄物は原則として船内に保管し、着岸後に産業廃棄物などとして陸揚げして処理をしています。船舶からの廃棄物についても、可能な限りリサイクルを行い、通函（かよいばこ：物品を輸送する際に繰り返し使用される箱のこと。）を使用するなどして廃棄物の発生を抑制するよう努めています。

なお法令の基準の範囲内で、船内で発生した一部の廃油については焼却して処分を行い、残飯などの食品屑についてはグラインダーで粉砕した後、海中に放出して処理を行っています。

一方、船内で発生するふん尿等の汚水については船内の汚水処理設備において浄化した後、排出可能な海域において海洋中に放流しています。また、風呂からの排水など一般的な生活排水は、排出可能な海域でそのまま海洋中に放流して処理を行っています。

## ■ 環境を考える日

横須賀本部では毎週水曜日を「環境を考える日」と定め、構内放送により職員に室内の消灯などを呼びかけています。

放送文：『毎週水曜日は環境を考える日です。昼休みには室内の照明を消灯するなど省エネルギーと環境に配慮した生活を心がけましょう』

## ■ 海洋プラスチック問題への取組み

海洋プラスチック問題を受け、海洋生物環境影響研究センター海洋プラスチック動態研究グループが中心となって、5/30のゴミゼロの日及び6/8の世界海洋デーに合わせ、役職員に対しプラスチック製品の安易な使い捨てを見直すよう、呼びかけを行いました。

## ■ エコキャップの収集

JAMSTECでは2009年度から横須賀本部、横浜研究所、むつ研究所、国際海洋環境情報センターでペットボトルのキャップ収集を開始し、一般社団法人グループMATEに送付しています。



エコキャップ (2018.12.21回収)

## ■ 循環使用・再利用

横須賀本部から排出される生活排水は浄化槽で処理を行った後、海域へ放流していますが、夏場の雨が少ない時期などはこの処理水を緑地管理に使用し水資源の節制に努めています。使用量は1日当たり5～10m<sup>3</sup>です。

## ⚓ JAMSTEC 写真館 ⚓



コトクラゲ  
(薩摩半島 野間岬沖 2005/08/02)